

(電子メール施行)
農技1069号
平成30年5月2日

関係機関長 様

兵庫県病虫害防除所長

平成30年度病虫害発生予報第1号を発表します。

平成30年度病虫害発生予報 第1号

向こう1か月の病虫害発生予想

作物名	病虫害名	発生予想	発生現況
イネ	苗立枯病	平年並	平年並
	ばか苗病	平年並	平年並
	ヒメトビウンカ (縞葉枯病)	平年並	やや少
ムギ	赤さび病	平年並	平年並
	赤かび病	平年並	平年並
	アブラムシ類	やや少	少
春キャベツ	黒腐病	やや少	少
	菌核病	平年並	やや少
	モンシロチョウ	やや多	平年並
	コナガ	やや多	やや多
	アブラムシ類	平年並	やや少
春レタス	菌核病	平年並	やや少
	灰色かび病	平年並	平年並
	アブラムシ類	やや少	少
	ハモグリバエ類	やや少	少
タマネギ	べと病	やや多	平年並
	灰色腐敗病	平年並	やや少
	細菌性病害	やや多	やや少
	ネギアザミウマ	やや多	平年並
イチゴ	うどんこ病	平年並	平年並
	灰色かび病	やや少	やや少
	炭疽病	平年並	やや少
	ハダニ	やや多	やや多
	アブラムシ類	やや少	やや少
	アザミウマ類	やや多	平年並
野菜共通	ヨトウガ	やや多	やや多

* 気象の概況

近畿地方 1か月予報

(4月28日から5月27日までの天候見通し)

平成30年4月26日
大阪管区气象台 発表

<特に注意を要する事項>

期間の前半は気温の高い状態が続き、特に期間のはじめは気温がかなり高くなる見込みです。

<予想される向こう1か月の天候>

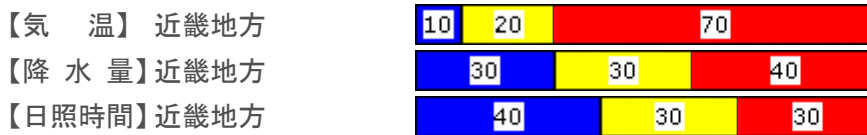
向こう1か月の出現の可能性が最も大きい天候と、特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。

天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

向こう1か月の平均気温は、高い確率70%です。

週別の気温は、1週目は、高い確率80%です。2週目は、高い確率50%です。3～4週目は、高い確率50%です。

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>



凡例: ■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)

<気温経過の各階級の確率(%)>



凡例: ■ 低い ■ 平年並 ■ 高い

<予報の対象期間>

- 1か月 : 4月28日(土)～ 5月27日(日)
- 1週目 : 4月28日(土)～ 5月 4日(金)
- 2週目 : 5月 5日(土)～ 5月11日(金)
- 3～4週目 : 5月12日(土)～ 5月25日(金)

* 発生概況及び防除対策上の留意点

イネ

1 【苗立枯病】

- (1) 予報の内容 発生量：平年並
(2) 予報の根拠

ア 育苗期はムレ苗になりやすく、昼夜の温度較差が大きいことから、発病を助長する可能性があるため、適切な換気に努める必要がある。

イ 1か月予報によると、気温は高く、降水量は平年並と予想され、天気は周期的に変わるとされており、平年並に発病すると予想される。

2 【ばか苗病】

- (1) 予報の内容 発生量：平年並
(2) 予報の根拠

ア 現在のところ発生は未確認であるが、1か月予報によると、気温は高く、降水量は平年並と予想され、天気は周期的に変わるとされており、平年並に発病すると予想される。

3 【ヒメトビウンカ】（縞葉枯病）

- (1) 予報の内容 発生量：平年並
(2) 予報の根拠

ア 4月11日予察ほ場におけるすくい取り調査では成虫の発生が認められた(1頭/10回振り)。成虫の発生時期としては早く、ムギへの飛来時期も早くなっていると考えられる。

イ 1か月予報によると、気温は高く、降水量は平年並と予想され、今後の越冬世代成虫のムギへの飛び込みが増えるとともに、ムギにおける次世代虫（第1世代虫）の増殖が進むと考えられる。

ウ 前年秋の縞葉枯ウイルス保毒率については、平成29年度病害虫発生予察技術情報第1号（平成29年度12月26日付け）を参照（HPに掲載中）。

エ ウによると、播磨地域の一部で保毒虫率が高いので注意する。

ムギ

1 【赤さび病】

- (1) 予報の内容 発生量：平年並
(2) 予報の根拠

ア 4月中旬の現地調査では発病株率12%（前年値0%）と平年並に発生を確認している。1か月予報によると、気温は高く、降水量は平年並と予想され、天気は周期的に変わるとされており、平年並に発病すると予想される。

2 【赤かび病】

- (1) 予報の内容 発生量：平年並
- (2) 予報の根拠
- ア シロガネコムギの出穂期は平年より3日早く（加西市、農業技術センター）、1か月予報によると、気温は高く、降水量は平年並と予想され、天気は周期的に変わるとされており、平年並に発病すると予想される。
 - イ 今後の降雨により、病勢が進展すると予想される。
- (3) 防除上の留意点
- ア 開花期防除が、実施できなかった場合には必ず薬剤散布を行い、実施できた場合でも天候によっては追加の薬剤散布を行って防除を徹底する。
 - イ 薬剤散布を行う場合は、病害虫・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）等を参考に薬剤を選定し、農薬使用基準を守る。また、2回目の防除にあたっては1回目と異なる薬剤を選ぶことが望ましい。
<http://www.nouyaku-sys.com/nouyaku/user/top/hyogo>

3 【アブラムシ類】

- (1) 予報の内容 発生量：やや少
- (2) 予報の根拠
- ア 予察ほ場における調査では、わずかに発生を確認している。
 - イ 今後、麦の出穂と気温の上昇に伴い、発生量が増加するがやや少ない程度で推移すると考えられる。

春キャベツ

1 【黒腐病】

- (1) 予報の内容 発生量：やや少
- (2) 予報の根拠
- ア 4月10日の巡回調査では、発生ほ場率0%（平年値3.6%）と発生を認めなかった。1か月予報によると、気温は高く、降水量は平年並と予想され、天気は周期的に変わるとされており、今後の発生が予想される。

2 【菌核病】

- (1) 予報の内容 発生量：平年並
- (2) 予報の根拠
- ア 4月10日の巡回調査では、発生ほ場率0%（平年値23.6%）と発生を認めなかったが、現地において周辺ほ場で認められた。1か月予報によると、気温は高く、降水量は平年並と予想され、今後の降雨により、発生を助長すると考えられる。

3 【モンシロチョウ】

- (1) 予報の内容 発生量：やや多

- (2) 予報の根拠
- ア 多数のほ場周辺で成虫の飛翔が観察されており、今後、幼虫の発生が増えると予想される。
 - イ 1か月予報によると、気温は高く降水量は平年並と予想されていることから本虫に好適な条件が続くと考えられる。
- (3) 防除上の留意点
- ア 防虫ネットや寒冷紗で覆い、産卵防止に努める。
 - イ 薬剤防除による効果は高い。薬剤散布を行う場合は、病害虫・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）等を参考に薬剤を選定し、農薬使用基準を守ること (<http://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/hyogo>)

4 【コナガ】

- (1) 予報の内容 発生量：やや多
- (2) 予報の根拠
- ア 4月1日～16日の加西市のフェロモントラップでの誘殺数11頭（前年値2頭）、予察灯では、加西市で8頭（前年値2頭）、南あわじ市で14頭と多く、また、平年より早い時期から成虫の発生が認められている。
 - イ 1か月予報によると、気温は高く降水量は平年並と予想されていることから、本虫に好適な条件が続くと考えられる。
- (3) 防除上の留意点
- ア ほ場内や周囲の雑草除去（特にアブラナ科）に努める。
 - イ 発生初期の防除に努め、同系統の薬剤の連用は避け、ローテーション散布を行なう。
 - ウ 薬剤散布を行う場合は、病害虫・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）等を参考に薬剤を選定し、農薬使用基準を守ること
(<http://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/hyogo>)

5 【アブラムシ類】

- (1) 予報の内容 発生量：平年並
- (2) 予報の根拠
- ア 4月中旬の現地調査ではわずかに発生が認められた程度であったが、今後の気温の上昇に伴い平年並の発生になると予想される。

春レタス

1 【菌核病】

- (1) 予報の内容 発生量：平年並
- (2) 予報の根拠
- ア 4月10日の巡回調査では、発生ほ場率0%（平年値19.2%）と発生を認めなかったが、現地において周辺ほ場で認められた。1か月予報によると、気温は高く、降水量は平年並と予想され、天気は周期的に変わるとされており、平年並に発病すると予想される。

2 【灰色かび病】

(1) 予報の内容 発生量：平年並

(2) 予報の根拠

ア 4月10日の巡回調査では、発生ほ場率8.3%（平年値8.2%）、発病株率0.2%（平年値0.2%）と平年並の発生であった。1か月予報によると、気温は高く、降水量は平年並と予想され、天気は周期的に変わるとされており、今後も平年並の発生で推移すると考えられる。

3 【アブラムシ類】

(1) 予報の内容 発生量：やや少

(2) 予報の根拠

ア 4月中旬の現地調査では発生は認められていないが、今後の気温の上昇に伴い発生すると予想される。

4 【ハモグリバエ類】

(1) 予報の内容 発生量：やや少

(2) 予報の根拠

ア 4月中旬の現地調査では発生は認められていないが、今後の気温の上昇に伴い発生すると予想される。

タマネギ

1 【べと病】

(1) 予報の内容 発生量：**やや多**

(2) 予報の根拠

ア 4月27日の巡回調査では、発生ほ場率30.9%（平成28年84.8%）、発生株率0.26%（平成28年4.34%）と急増している。

イ 1か月予報によると、気温は高く、降水量は平年並と予想され、天気は周期的に変わるとされていることから、ある程度の降雨が見込まれる。以上のことから、今後、二次感染が拡大すると考えられる。

(3) 防除上の留意点

ア ほ場の発生状況を十分観察し、地域の防除暦やタマネギべと病対策マニュアル（技術者版）を活用して、薬剤防除を徹底すること。

イ 薬剤散布にあたっては、タマネギの生育に応じた水量とし、散布ムラの無いように丁寧に行なうこと。

ウ タマネギべと病の防除の徹底については、平成30年度病害虫発生予察防除情報第1号（平成30年度4月27日付け）を参考されたい（HPに掲載）

エ 薬剤散布を行う場合は、病害虫・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）等を参考に薬剤を選定し、農薬使用基準を守ること

<http://www.nouyaku-sys.com/nouyaku/user/top/hyogo>

2 【灰色腐敗病】

(1) 予報の内容 発生量：平年並

(2) 予報の根拠

- ア 4月10日の巡回調査では、発生ほ場率0%（平年値2.8%）と認められなかったが、現地において周辺ほ場で認められた。
- イ 1か月予報によると、気温は高く、降水量は平年並と予想され、天気は周期的に変わるとされており、平年並に発生すると予想される。

3 【細菌性病害】

(1) 予報の内容

発生量： **やや多**

(2) 予報の根拠

- ア 4月10日の巡回調査では、発生ほ場率25%（前年値8.3%）であった。4月11日の予察ほ調査では、発生株率1.5%（平年値0%）と広域的に発生が認められている。前線の通過による強風で葉が傷み、感染が助長されると考えられる。
- イ 1か月予報によると、気温は高く、降水量は平年並と予想され、今後も発生は増加すると考えられる。

(3) 防除上の留意点

- ア 貯蔵腐敗を防ぐため、適期に収穫するとともに、ほ場で十分乾燥させてから取り入れること。
- イ 薬剤散布を行う場合は、病害虫・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）等を参考に薬剤を選定し、農薬使用基準を守ること
(<http://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/hyogo>)

4 【ネギアザミウマ】

(1) 予報の内容

発生量： **やや多**

(2) 予報の根拠

- ア 4月上旬の現地調査では発生は認められなかったが、予察ほ調査では寄生株数20株、幼虫294頭（平年値：寄生株数13.3株、幼虫145.3頭）とやや高かった。
- イ 1か月予報によると、気温は高く降水量は平年並と予想されていることから、やや多い発生になると考えられる。

(3) 防除上の留意点

- ア 寄生植物が多岐にわたるので、ほ場周辺の除草を徹底する。
- ウ 薬剤散布を行う場合は、病害虫・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）等を参考に薬剤を選定し、農薬使用基準を守ること
(<http://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/hyogo>)

イチゴ

1 【うどんこ病】

(1) 予報の内容

発生量： 平年並

(2) 予報の根拠

- ア 4月中旬の現地調査では、発病株率6%（前年値0%）と平年並に発生が確認された。1か月予報によると、気温は高く、降水量は平年並と予想され、天気は周期的に変わるとされており、平年並に発生すると予想される。

2 【灰色かび病】

- (1) 予報の内容 発生量：やや少
(2) 予報の根拠

ア 4月中旬の現地調査では、圃場間差は大きいものの発生が認められた。
イ 1か月予報によると、気温は高く、降水量は平年並と予想され、天気は周期的に変わるとされており、今後の発生が予想される。

3 【炭疽病】

- (1) 予報の内容 発生量：平年並
(2) 予報の根拠

ア 4月中旬の現地調査においては、本病の発生を認めなかったが、一部で発生を確認している。1か月予報によると、気温は高く、降水量は平年並と予想され、天気は周期的に変わるとされており、今後、本病は高温により発病が助長されると予想される。

4 【ハダニ類】

- (1) 予報の内容 発生量：やや多
(2) 予報の根拠

ア 4月上旬の現地調査では発生ほ場率は75%（前年値25%）とやや高い状態であった。
イ 1か月予報によると、気温は高めに推移すると予想されており、ハダニ類に好適な条件が続くと考えられる。

(3) 防除上の留意点

ア ハダニ類除去と薬剤効率を高めるため、生育への影響がない程度に古葉を除去する。
イ 早期発見に努め、早期の防除を実施する。
ウ 薬剤を散布する場合は、葉裏や下葉にもよくかかるようにていねいに防除する。
エ 天敵カブリダニを導入している場合は、天敵に影響のある剤の使用を控える。
オ 薬剤散布を行う場合は、病害虫・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）等を参考に薬剤を選定し、農薬使用基準を守ること
(<http://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/hyogo>)

5 【アブラムシ類】

- (1) 予報の内容 発生量：やや少
(2) 予報の根拠

ア 4月上旬の現地調査では発生がわずかに認められた程度であり、今後はやや少ない発生で推移すると予想される。

6 【アザミウマ類】

- (1) 予報の内容 発生量：やや多
(2) 予報の根拠

ア 4月上旬の現地調査、場内調査ともに発生が認められている。
イ 1か月予報によると、気温は高めに推移すると予想されており、施設内における増殖が進むとともに、野外からの飛び込みも増えることから、やや多い発生になると考えられる。

(3) 防除上の留意点

- ア これからの時期は、温度が高くなり短期間で急増して被害が拡大するおそれがあるので、ほ場をこまめに観察し早期防除に努める。
- イ 薬剤散布を行う場合は、病虫害・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）等を参考に薬剤を選定し、農薬使用基準を守ること
(<http://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/hyogo>)

野菜共通

1 【ヨトウガ】

- (1) 予報の内容 発生量：やや多
 - (2) 予報の根拠
 - ア 加西市のフェロモントラップでは、4月4半旬に誘殺が7頭あり、前年（1頭）と比較してやや多く、また、平年より早い時期から飛来が認められている。
 - イ 本種は、春と秋の年2回、発生する。今季は、短期間に成虫の発生が集中する傾向にあり、次世代幼虫の発生時期も集中することから、農作物に被害が生じやすい状況にあると考えられるので注意が必要である。
 - ウ 向こう1か月予報によると、気温が高く降水量は平年並とされていることから、幼虫の発生に好適な条件が続くと考えられる。
 - (3) 防除上の留意点
 - ア 施設栽培では、開口部に寒冷紗を張り、成虫の侵入を防ぐ。
 - イ 露地栽培では、寒冷紗でのべたがけ、トンネルがけを行なう。
 - ウ 若齢幼虫時は集団でいるため、早期発見による防除が効率的である。
 - エ 薬剤散布を行う場合は、病虫害・雑草防除指導指針（兵庫県農薬情報システム）等を参考に薬剤を選定し、農薬使用基準を守ること
(<http://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/hyogo>)
- * この情報は、兵庫県立農林水産技術総合センターホームページに掲載
(<http://hyogo-nourinsuisangc.jp/>)